

湛睿の『華嚴經旨帰見聞集』について

納 富 常 天

法蔵の『華嚴經旨帰』⁽¹⁾一卷は、『華嚴經文義綱目』⁽²⁾『華嚴經義海百門』『華嚴經七科章』『華嚴經問答』(いずれも法蔵撰)などと共に、『六十華嚴經』の綱要書として、古来から重視された。延暦二十五年(八〇六)には、とくに『華嚴五教章』『華嚴經文義綱目』と共に、華嚴業年分度者の学業として指定されているほどで、その注釈書も少なくない。いま『仏書解説大辞典』『国書総目録』および鎌田茂雄博士の『華嚴学研究資料集成』などによると、

- (1) 釈華嚴旨帰章円通抄 二卷 均如著
高麗大蔵經第四十七卷所収
- (2) 花嚴旨帰採要抄 一卷 著者未詳
小野玄妙旧蔵 大日本仏教全書第十三所収
- (3) 華嚴旨帰聞書 一卷 道恵房著⁽³⁾
東大寺図書館所蔵
- (4) 華嚴經旨帰講録 三卷 宝景著
大谷大学所蔵 享和二年自筆

- (5) 華嚴經旨帰搜秘 三卷 大安著
大谷大学所蔵
 - (6) 華嚴經旨帰講述 二卷 善慶著
天保七年
 - (7) 華嚴經旨帰講録 二卷 秀存著
天保十三年
 - (8) 華嚴經旨帰誘蒙 二卷 大安著
嘉永三年
 - (9) 華嚴經旨帰講録 二卷 芳樹著
慶応三年
 - (10) 華嚴經旨帰録 二卷 著者未詳
竜谷大学所蔵
 - (11) 華嚴經旨帰講録 二卷 中島覚亮著
大正五年刊
- が知られているが、いま一つ金沢文庫資料湛睿撰『華嚴經旨帰見聞集』(仮題)を加えなければならぬ。
- 湛睿(一二七一—一三四六)は東大寺凝然や久米多寺禅爾の

弟子で、華嚴・戒律の大学匠であるが、前にも触れたように、杜順・智儼・法蔵・澄観など、華嚴宗祖師の撰述を網羅的に注釈している。⁽⁴⁾『華嚴経旨帰』についても例外ではなかった。

しかし従来本書が知られなかった事情として、つぎのようなことが推察される。まず湛睿は三十歳以降、久米多寺遊学（正和二年（文保二年）をのぞき、その活躍の場がもっぱら東国であったから、中央に流布しなかったこと、つぎに『華嚴演義鈔纂釈』等の自著中に触れていないこと、また湛睿の自筆稿本（湛稿冊子四一・一〇八・一二二に分割整理されているのみならず、『戒本見聞集』五二にも二紙混入している）も永年の伝承の間に、表紙や内題・尾題の部分が佚失すると同時に、本文も相当量散佚しているため、整理の段階でも判明しなかったことなどである。ここでは紙幅の関係から、とりあえず本文を紹介すると共に、今後の研究の手がかりとして、その成立などについて簡単な解説を付しておきたい。

まず書冊の形式であるが、残存稿本によると、法量は25×17・7cm、袋綴本で、一頁は八行乃至十一行である。調巻は『旨帰』本文と対照した場合、二冊あるいは三冊であったらしい。

つぎに本書の成立事情については、奥書が余すところなく語ってくれる。それによると、偏えに後進の周覽¹¹研究を助けんため、正和元年（一二二二）四月五日から八月二日まで、

鋭意関係疏章の文義をあつめ、その後十二年間にわたって添削修正を加え、元亨四年（一二三四）七月二十二日に脱稿したことがわかる。したがってこれは湛睿の著作活動⁽⁵⁾からみると、徳治三年（一二〇八）に撰述を始めた『華嚴経探玄記疏抄類聚』のつぎに手がけたもので、初期の著作である。

なお奥書は建武四年（一二三七）二月二十三日から三月四日まで、下総国東禅寺（千葉県香取郡多古町）において、受講者十七八人に対し、十二回にわたり講義を開いた⁽⁶⁾ことを伝えているが、これは湛睿が『華嚴経旨帰』を重視していたことを証するものである。

内容は『華嚴経旨帰』本文から必要な語句を抽出し、ひろく経論章疏を引文して随文解釈したものである。なお残存稿本に抽出された語句を、大正新修大蔵経本（増上寺報恩蔵明本）と比較すると、十項目（17・26・41・43・56・64・67・73・78・81）にわたり、わずかな出入りが認められる。これは湛睿のテキストが文保二年（一二二六）証本⁽⁸⁾により校合した手沢本であったから、明本との出入りは当然としなければならぬ。また湛睿自筆稿本の残存状況はつぎのとおりで、弁経教第六の後半から明経益第九までの分が、比較的良好に残っている。

序

説経処第一

説経時第二 無し

説経仏第三

説経衆第四

説経儀第五 最初の部分がわずかにある

弁経教第六 前半がない

顕経義第七 中間にわずかな欠落がある

釈経意第八 尾部にわずかな欠落がある

明経益第九 中間に欠落がある

また残存稿本の所在と枚数は、つぎのとおりである。

(1) 章以音声

湛稿冊子一〇八（稿本四枚）

(3) 章或内六根

戒本見聞集五三（稿本二枚）

(4) 章同説経者

同類眷属

(8) 章一々主経

湛稿冊子一二一（稿本十一枚）

(25) 章舎那品云一切衆生

(26) 章謂此一花葉

湛稿冊子四一（稿本四十一枚）

(90) 章及舎那品初

最後に、注釈にあたっては広く経論章疏を援用しているが、その一覧はつぎのとおりである。

成唯識論

成唯識論述記

成唯識論演秘

華嚴經探玄記

高僧伝

華嚴演義抄会解記

六十華嚴経

八十華嚴経

華嚴孔目章

華嚴経疏

華嚴五教章

大智度論

華嚴経搜玄記

華嚴演義鈔

十地論

梵網経

梵網経疏

起信論疏筆削記

円覚略抄

華嚴経談玄決択

大乘起信論

大乘本生心地観経

華嚴経刊定記

華嚴還源観

孟蘭盆経疏新記

三聖円融観

自防遺忘集

禅源諸詮集都序

玉篇

このうち『華嚴探玄記』『華嚴経疏』『華嚴演義鈔』の引用が突出しているのは当然であるが、観復の『華嚴演義鈔会解記』、鮮演の『華嚴経談玄決択』、子璿の『起信論疏筆削記』などの宋朝華嚴を引用していることは注目しなければならぬ。それは湛睿における華嚴教学の特色として、積極的な宋朝華嚴の受容をあげることができるが、その片鱗が早くからあったことを示すものである。

なお(7)「若有得経巻起如来塔廟」(五九五・下)の注釈中に「延慶新渡宋本」とあるが、これは金沢文庫本『顕密円通成仏心要』の奥書に「延慶二年^{乙酉}比、有渡宋禅客、名道眼坊、奉渡一切経之時、適感得此心要⁽⁹⁾兩卷、即同渡之(後略)」とみえる道眼房将来の宋本と思われる。

以上、書冊の形式や成立事情について、簡単に解説を加え

たが、最初に列挙した注釈書からもわかるように、年代不明の道恵房『華嚴旨帰聞書』をのぞくと、湛睿のものより古いのは高麗均如(九三三―九七三)の『釈華嚴旨帰章円通抄』だけである。また著者未詳の『花嚴旨帰採要抄』は「説経時第二」までの注釈にとどまり、道恵房の『華嚴旨帰聞書』も五六枚からなる小部の著作であることを考えると、湛睿の『華嚴旨帰見聞集』は日本仏教史上、『華嚴旨帰』注釈の先駆的かつ比類のないものとして注目しなければならぬ。

- (1) 円超の『諸宗章疏録』、謙順の『増補諸宗章疏録』および一色順心「法蔵撰華嚴旨帰の研究」(印仏研二九―二)などによると、『華嚴旨帰』と称するものは、法蔵撰以外に、靈祐(五一八―六〇五)の『華嚴旨帰』一卷(未現存)、東晋法業述の『華嚴旨帰』二卷(未現存、湛睿の『華嚴演義鈔纂釈』に「綱目云、法業出義記二卷、名華嚴旨帰」へ大正五七・一一三・下とある)、仏陀三蔵(下卷は法業就法明二仏之名とする)の『華嚴経両卷旨帰』二卷(金沢文庫蔵、湛睿手沢本)がある。

- (2) 湛睿の『華嚴演義鈔纂釈』中に「委如綱目見聞集抄之」(大正五七・九六・中)、「如探玄第一・綱目等私抄」(大正五七・一一六・上)、「如綱目見聞集中記之」(大正五七・三五八・上)とあり、湛睿の注釈書があったことがわかるが、すべて散佚してしまい、卷冊数、内容の結構など、まったく知ることができない。また「嘉元四年^{丙午}夏安居中、以談義次、科之、沙門禪爾^{生齡五十五}」とある久米多寺禪爾の『華嚴经文義綱目序

湛睿の『華嚴旨帰見聞集』について(納富)

科分」一紙(金沢文庫古文書五八六五号紙背)がある。

- (3) 『仏書解説大辞典』の「得る者之れを珍とす」とされる古写聞書一卷道恵坊作と同一書と思われるので、東大寺図書館所蔵本を掲げた。なお東大寺本は表紙に澄算の手沢名があり、著者名は「尾道恵房」とある。「尾」の上の字は木偏で、旁が明確でないが、あるいは「梅」かも知れない(東大寺図書館新藤佐保里氏の御教示による)。しかし残念ながら『高山寺経蔵典籍文書目録』には見出すことができなかった。

- (4) 拙著『金沢文庫資料の研究』参照。

- (5) 拙稿「湛睿の事績」(本論集第十六号所収)参照。

- (6) 湛睿は嘉暦元年(一一三二)七月以前に東禅寺長老となり、『四分律行鈔見聞集』、『起信論義記教理抄』、『五教章纂釈』等の講義も行っている。

- (7) 抽出語句には便宜的に番号を傍注した。

- (8) 湛睿手沢本『華嚴旨帰』(□ □ □ □)証本校合之、若是非分明者、即刊定□ □ □ □以朱点付也、然則此為写本之人純写□ □ □ □混乱両本矣、同廿一日申尅、於泉州□ □ □ □

乏道沙門湛睿^{通廿四俗四十八}の奥書あり)により校勘すると、証本は平安時代写小野玄妙氏蔵本(大正蔵経本対校本乙)と伝写の系統を同じくするものである。なおこの頃湛睿は久米多寺を拠点に、宋本・高山寺経蔵本等により、盛んに書写・校合を行っている。

- (9) 『徒然草』第一七九段に「入宋の沙門道眼上人、一切経を持来して、六波羅のあたりやけ野といふ所に安置して、ことに首楞嚴経を講じて那蘭陀寺と号す」とある。

凡例

- 一 稿本は『華嚴經旨歸』の本文に順じて配列した。
- 一 注釈のため湛睿が抽出した『華嚴經旨歸』中の語句には、便宜的に番号をつけると同時に、その下に大正新修大藏經第四十五卷の頁・段を付した。
- 一 虫損等により不明な部分は□にした。
- 一 異体漢字は可能なかぎり原文どおりにした。
- 一 訓点等は原則として原文の表記どおりにした。
- 一 稿本は随所に搜入がみられ、原文どおりの改行に組めないの
で追込みにした。
- 一 筆者が私に校訂した部分は（ ）を付し傍注した。

華嚴經旨歸見聞集

（前欠）

① 章以音声文（五九二・上）問今開十例、一中妙色音香等者是樹形等、諸余、仏土說經之儀、歟為當通娑婆說經之儀、歟、答下異說經同、說經中有簡別尺、可見之且唯識論第二云、且依此土、說名句文、依声、仮立、非謂、一切、諸余、仏土亦依光明妙香味等、仮立、三、故、已、述記、二本云、余、仏土者何者是耶、如無垢稱經說、或以光明

妙香及味、等者等取触思数、等、此、上皆得仮立名等、三種、已、演、秘、第二云論諸余、仏土至立三故者、維摩等、經是、為証、也、問案彼、經、云、我、土、如來、無、文字、說、但、以、衆、香、一、令、諸、天、人、一、入、律、行、一、等、此、乃、香、上、不、立、名、等、何、得、為、証、答、對、於、此、土、音、聲、屈、曲、取、立、一、名、字、上、言、彼、土、無、不、說、彼、香、無、文、字、等、問、香、上、名、等、行、相、云、何、答、由、香、差、別、悟、法、自、性、差、別、等、故、猶、聲、屈、曲、解、法、等、也、問、思、等、如、何、依、立、名、等、答、由、依、思、等、了、法、性、等、一、立、名、等、若、余、彼、土、仏、說、法、不、答、亦、說、法、問、如、何、表、示、令、他、得、解、而、名、說、耶、答、由、能、說、者、思、上、名、等、一、令、化、一、機、思、数、等、上、名、等、得、起、一、名、之、為、說、夫、說、法、者、本、令、他、解、一、思、等、為、緣、一、他、因、解、起、名、說、一、何、失、問、豈、彼、衆、生、惣、得、他、心、又、下、如、何、能、知、上、意、答、世、界、既、差、惣、得、何、失、上、加、於、下、下、解、無、違、問、此、方、亦、有、見、色、一、聞、香、一、自、思、解、義、一、依、思、等、一、立、名、句、文、一、答、有、二、尺、一、依、多、分、二、云、由、會、聞、聲、一、先、解、名、等、一、後、見、色、等、一、於、義、一、解、生、憶、念、先、時、名、句、等、一、故、問、此、依、香、等、一、解、云、憶、教、一、依、聲、一、他、解、籍、香、一、生、同、憶、香、非、教、一、答、要、先、聞、聲、一、見、色、一、生、解、一、雖、見、色、一、解、教、一、依、聲、一、聞、香、一、生、解、一、不、由、聲、一、故、名、等、依、香、等、一、前、解、為、勝、一、此、依、色、等、一、立、名、句、等、一、而、無、教、遮、一、復、不、違、理、一、問、聲、內、勤、勇、発、名、等、可、即、聲、一、香、待、外、一、方、生、名、等、應、非、有、一、答、內、香、亦、勤、発、如、聲、一、得、有、名、一、外、香、同、水、林、一、名、有、一、何、違、理、一、由、聞、香、等、一、得、生、解、一、故、若、余、者、亦、依、所、詮、一、生、悟、一、心、亦、依、彼、一、立、於、名、等、一、答、由、因、能、詮、一、所、詮、方、解、一、故、名、句、等、不、依、所、詮、一、問、經、言、依、香、一、以、為、一、仏、事、一、即、依、香、等、一、立、文、名、句、一、經、亦、說、

言或有仏土寂寞、無言或但虚空、而為仏事、豈即依彼無言
說等、立名句、耶答立、名、何失如依、思等、即其事也、無依
声言、名無言、也亦不違理、問既不依声、而立名等、亦無声耳、
答此土不依香等、立教、香等不無、故彼声耳亦復得有、
今章正明六塵說經、而尺義不委細、故雖他師尺文繁、而具
引之、留意、思之、

(2) 章或以法境文(五九二・下)問能說之八以法境、說經、之相如何又
所被之機以何根何境、而得生解、哉答上所引演秘云由能說
者思上名等、正尺此等義相、可見之、以触思數等是法境、故
且如夢中有仏菩薩加冥力令見仏聞法者能所共是用法境歟又
今云或内六根者亦准、演秘云上加於下等、之尺、可知之、
(3) 章或内六根文(五九二・下)不思議品印本第三十一說十種自在正法、中云
一切諸仏能以眼入、作耳入、仏事、能以耳入、作鼻入、

(中欠)

說為相見不文等此問答意也然今以通別、尺之、中通者全是探玄
記第一尺能詮教、有十門、中第一言詮弁、門第三遍該諸法
門之義趣也何是為說經議、哉又探玄第三云第十正陳法海分
中先明諸會能說人、異、唯僧祇小相、二品、是仏說余、並菩薩說、
所表如下、尺、又依智論、有五說、一、仏說、二、弟子說、三、神仙說、四
諸天說、五、變化說、此、拋出、声名句等、若望授与、即通情非情、此
約三乘、又有五說、如下云、仏說菩薩說、刹說衆生說、三世一切說、
此、通三世間等、一切法、約一乘也、已准此、今云別顯十例者是

湛春の『華嚴經旨歸見聞集』について(納富)

明能說人、何云說經儀、哉答儀者儀則也

(中欠)

(4) 章同說經者文(五九三・上)問異說同說者得名如何答一義云異
類界說經同類界說經故云、尔、歟一義云唯識論第二云且依此
土說名句又依声、上文如、如准此、須弥山建立、世界出世諸仏
尽空法皆、同以音声、說法故名同說經、余、樹形等世界出世、諸仏
或有以妙香味、等說法不一、准、故名異說經、歟問若尔前、說經
儀明通別十例、是局異說經、歟答如演秘云由會聞声先解名等
上文如、例准可知、故章下文云此中說、上文如、非樹形等言、声說教、上文如、可
見之、

(5) 章如不思議品云文(五九三・上)探玄第十五不思議品尺十種大力那羅
延幢仏所住法、中云五普遍常轉法輪力、於中、二、句以、一、仏
身、同遍、法界、常轉法輪、二、如来、一、化身、下、□、一切身常轉法輪
卷第三十二
文、初以一、仏身等者、彼經、卷第三十二

(中欠)

(6) 章以須弥山聚筆、四大海水墨、文(五九三・中)探玄記第一全同之
何況普經四十七云、上文如、便有人以大海等墨、須弥聚筆、一、書、写、此、經
等、然、今、章、有、本、云、以、須、弥、山、聚、為、筆、以、四、大、海、水、為、墨、者、誤、也、為
以為之、三字、可、除、之、

(7) 章會往兜率天文(五九三・中)高僧伝第二云、上文如、跋陀羅、

(中欠)

訖、便、隱、達、多、知、是、聖、人、未、測、深、淺、後、屢、見、賢、神、變、乃、敬、心、祈、問、

方知得^ト不還果^ト已

章一々主經○同類眷屬文(五九三・中)問眷屬是在第九故今可云同類伴何云同類眷屬哉答主伴眷屬兩經不同如章主至下自尺但今云眷屬者伴与眷屬可有通局故會解記第八云応作四句一有唯主伴非眷屬如此方十住法門為主余方為伴以非附本相從起故不名眷屬二有是眷屬非主伴謂如余經但与花嚴為勝方便故称眷屬不与花嚴俱時相帶円融而起不称為主伴三亦主伴亦眷屬謂法界修多羅起時攝刹塵契經同起与法界經為輔翼故名眷屬而主伴起故復名為伴四非眷屬非主伴謂余經相望或外典等^{此依上}

章相与同遍法界文(五九三・下)抄一下云言若約諸位相資則彼此互有同遍法者是相入門以約力用互資不壞自他○故得同遍法界而有主伴故非雜乱○然則有力能攝者為主無力被攝者為伴前相即門中正十住遍時不妨余遍但隱顯不同耳○然依相即門亦名為純遍周法界塵毛唯有十住等故後相入門亦名雜門以諸位一時相資遍故^上准此今主伴經者且約相入門一歟今云相与者彼此同有互相資助之義也然有本同遍之同字作周者誤也恐濫相即一歟

章九眷屬經者謂此無尽文(五九三・下)三乘小乘等諸權教名眷屬經也然今文為生起^{セムカ}仏説此眷屬經故先明下位菩薩等三位人不能聞見^{スルコト}彼無尽契經之相也於中有一段初以義正尺二性起品下引經以証亦二初通証三位謂一切衆

生之言通含三位故今所引次上經文云如是經典但為乘不思議乘菩薩○不為余人^ト玄十六云余有三種二凡夫二二乘三權教中初住菩薩謂乘可思議乘菩薩如此下文億那由他行六波羅密不聞不信等^上故知今一切衆生之言通含三種也次又云一切下別証二三兩位^ト応知

章雖聞不信是等文(五九三・下)本文^{卷第三十七}全如是然有本云雖聞

此經不信者此經二字可除之

章解云以彼器劣文(五九三・下)自下正明眷屬經之相也問何故

一乘經必以三乘等經為眷屬哉答以所流故以所攝故又權

實無導故三一和合表同教故問舍那品云尔時世尊○即於面門

及一々齒間各放仏世界塵数光明○一々光明各有仏世界塵数

光明以眷屬^上如是等事触類皆尔

章又如普莊嚴文(五九三・下)普經第四此童子值二仏一聞一經

也初仏名一切功德本勝須弥山雲即説現三世一切諸仏集會

經以世界塵数修多羅為眷屬云童子見仏得定是自分

始也聞經得定是自分成滿之位也又後仏名一切度離癡清淨

眼王如来即説一切法界自性離垢莊嚴經以世界微塵数等修

多羅為眷屬云以此見仏及聞經如其次第亦成勝進分之

始及終也問此自分勝進者於何位論之哉答且如孔目章第

一乘^{一乘三}云若依一乘円通之教由義自在惣別相成故無前後始終

淺深近遠等別但不退已後即明得彼普賢之法一約熟教比之

即十信滿心已去即是其位其普賢位中对彼解行法及彼得義唯

有自分勝進而義不同其身在於白淨寶網轉輪王位^{文等}

章十⁽¹⁴⁾滿經者文(五九三・下)此上九經並約一類機感各顯一門

之一相經故彼此各別互不相通然約教主則通是一仏所

說故取別歸通惣相混同即成一無尽大修多羅海然則既取

別歸通故縱雖眷屬經中人天經全如仏徳冥契法界無分

齊其一文一句包攝法界及一々文句遍入教義理事等一切諸

法人天教既余亦如是故云此上諸本乃隨於其中等也此

義例如大疏云五戒十善亦円教攝尚非三四况初二耶斯則有其

所通無其所局上今即云円滿教法理亦故者是也譬如大海

潛流天下是名百川故得取百川別終歸一大海既歸大海則

百川同一鹹味舍那一無尽大修多羅海潛流大小偏円之諸

機是名九經等法譬全同思之必知問所成之義趣但是同說

經普遍常転法輪及普眼經等之說相也何別立為第十經哉答

不尔同說經者不通異說經故章云此中說処非樹形等况普

眼經者猶不及同說經何得与此円滿經對論同異哉並如

次上抄之問若如所立者各為諸機所說之九經通攝歸教主

徳一名円滿教尔者別不可有受此經之一機歟答探玄第一云

此普賢機乃見一切所見乃聞一切所聞皆尽盧舍能化分齊故云

普眼境也上今章亦云尽仏能化無辺境者是也故知別有普賢

機可受此經也問若尔受前同說經普眼經之機者非普賢機

歟答彼亦雖普賢機而且約一經顯其能受也問但東前九本一惣名円滿經一歟為当別有一經一名円滿經一歟答

此上九經約別機各聞有異故所引証經各明為一機一說一經

之旨然今下所引舍那品但惣明仏現自在力窮願海一振円

音調万類之旨故知但混融前九本一非是別有一經一歟問

既云別有普賢機可受此經何別無一經哉何況下引法界

品為善伏太子所說円滿修多羅以為証拠豈非別有一經

哉答今章惣立十門其第十顯經円者謂上九門所顯之法惣合為

一大縁起法今示經教析為十類中第十円滿經例准応知

但於下所引法界品文者但是得名之証拠歟

故舍那品偈云(五九四・上)彼品正明花藏世界有三段今引

第二明諸香海上所持雜世界性中文也

章又法界品中文(五九四・上)願剪光明守護衆生夜天

過去本生為善伏太子時於宝光世界中設大施会隨意

布施時有仏出世名法輪音声虚空燈即往彼会为太子并衆

會說法如普經五十六本云尔時如來知諸衆生受化者而為

演說円滿因縁修多羅時彼大衆聞正法已八十那由他衆生皆

起離垢清浄法眼得無學地一万衆生得大乘道滿足普賢菩

薩行願○百仏世界微塵等衆生具摩訶衍滅十方世界無量衆

生惡道苦難一生天人趣一時彼太子得隨応化覺悟衆生長養善根

法門探玄記第二云五說法益衆六太子得法但科判無細

尺即同偈頌云顯現自在力演說円滿經無量諸衆生悉受菩提

記今第十經名全依此文也問見所引文円滿經所益広通三乘人天乘全同深密經云普為

発趣一切乗者説、亦亦名円満經、何引為、此上諸本惣混同、一無尽大修多羅海、名円満經、之証拠、上哉答

顯經義第七

章略就所標所顯各弁十門文（五九四・上）有本云略開二類各弁十門、也所標所顯者教義等、十事是惣、標拳円經所立之法義、故云所標、也性相等十門是別、尺顯前、所標、十義、故云所顯、也五教章如次、一名立義解尺、頗同今所標所顯之名義、也有章撮為十對文（五九四・上）今所標所顯各有十義、並是初會、舍那品中勝音所坐蓮花所具之法門、故今章釈所顯十義、中即指彼文、也又依探玄記、所標、十義亦依彼蓮花、故彼第一第九義理分齊門云如下文中一蓮花葉表令生解、為教、即是所詮為義、如下勝音菩薩蓮花処説、二花相、為事、花鉢是理、下云法界不可壞蓮花世界海三花、是所觀亦即能觀、以此經中可以內行為外事、故四行事之花結成位、故五因事之花攬成果、故六花台所依亦入正故如国土身等、七花鉢同真、用心機、故八全攬為人、恒是法故九逆同五熟、順十度故十心赴群機、亦能感、故如一花事、既余、余一切事皆推知之、事法既余、教義等一切皆然、如具自十對、既余、彼一花葉具前、十門、前十門者同時具足等、所顯之十門也

章一教義一對文（五九四・上）探玄記第一云若小乘教義俱不融三

乘義融教不融、一乘教義俱融、今云無尽言教、者円融無尽也、如前普眼經等、思之、若依教章、則広攝一乘三乘等、余亦如是、章五因果一對文（五九四・上）此有兩尺、初通約諸教、心知後別、依円經、或約三聖、歟、或約二分、歟、思之

章八人法一對文（五九四・上）案云今約顯、与説之二義、明人法故云顯説法界等、也謂説者能説、為人、所説、為法、也顯者抄十三上十地、云諸仏菩薩從地門、顯皆名金剛藏、從廻向顯皆名金剛幢等、又文殊表信解智、普賢表理行果、等如是、心知

章五熟文（五九四・上）晋經四十九方便命婆羅門、云時婆羅門修諸苦行、求一切智、四面火聚猶如大山、中有刀山、高峻無極、從彼山上、自投火聚、唐經名勝熟婆羅門、者也探玄記十八云四面火聚者正法師云四無尋智能燒惑薪、故刀山者真無分別智出妄解、也從彼山上、自投火聚者加行相、心言無分別緣、真、望証真、顯妄滅故也、又解火聚者是根本般若、故智論云般若波羅密、猶如大火聚、四辺不可觸、遠離於四句、○刀山者是加行智趣証疾利、故高峻者非即正証、故投下者從彼、入此、故○此火聚刀山、即是法門、更無別表示、若余何故有刀火相、解云即以此相、即是法門、知甚難解、者是此文意、上

章衆鞞文（五九四・上）婆須密多女也、晋經五十一云若有衆生阿梨宜我者、得攝一切衆生三昧、上、搜玄記第五本云第二十五無尽藏、廻向善薩位女、名婆須密多、○阿梨宜者此方名本欲、阿衆鞞者此名正欲、上、探玄記第十九云婆須密此云世友、亦名天友、以

者此名正欲、上、探玄記第十九云婆須密此云世友、亦名天友、以

巧能引接ニ諸世間一故○阿梨宜者此云抱捺摩觸一是授受之相故彼三昧也阿衆鞞者此云嗚口一得言教密藏之定上今依此文故知指婆須密多安一名衆鞞也

⁽²⁴⁾章一王刑虐文(五九四・上)是無厭足王也晉經名滿足王一也但一

王者对上五熟一故云一王一無別所以一歟一義云此王一所行是惡中之惡第一惡人故云一王一歟下引經文一可見之一義云玉篇云

王一之王三者天地人而參通之者王也孔子曰一貫三為王上已一准此一今亦一貫三一為

王一故云一王一而对上五熟一歟刑虐者玉篇云刑戶丁切法也虐魚約切

有本作形像之形一者伝写之誤也晉經第五十第七無著云彼滿足

王有大勢力一離諸怨敵一無量自在○無量衆生犯王法一者身被

五縛一或断手足一或截耳鼻一或挑雙目一或斬身首一或投沸灰一或

疊纏油灌以火一焚之一如是一等無量楚毒而告治之一尔時善財作

如是一念我為一切衆生一故学菩薩行一修菩薩道一今見此王一行

大惡逆一諸不善行一此乃惡中之惡第一惡人作是念一時虛空有

天一而告之曰善男子汝当憶念普眼妙音善知識一教○何故疑恠

章舍那品云一切衆生文(五九四・上)彼品面覺集衆分中東北方

菩薩供養具云十種一切衆生衆不可尽示現雲上

(中欠)

⁽²⁶⁾章謂此一花葉文(五九四・中)問今所顯理趣者是事一無導也然

此性相無導豈非事理無導哉答有人云此所顯十門中初性相無

導者惣明因由一後九門別顯宗法一故此性相無導實是事理無

湛睿の『華嚴經旨歸見聞集』について(納富)

導也問若尔十由中何乎答抄一上云後一事一無導法界由事即

理事理無導故以理一融事一遍於重上已會解記第一云言事即理

下有二因一一由理事無導一此異門一因一以理融事即法性融通

即當門一因也上已又此記一次上文云由理事無導故得事一無導是約

同教一也法性融通即是別教因也云異門因當門因者准此可知

已上一有人云今章下第八門尺經意者是一正顯因由也故知此十種

無導並是宗法也但今性相無導者法界觀中周遍含容觀有十

門一理如事門注云由此真理全為事一故如事一顯現如事一差別

大小一多變易乃至無量無尽也上已一事如理門注云一一事皆

如理一溥徧广大如理一徹於三聖一如理一常住本然上已又云一為法

義牀用之本一是周遍文等准此一今云性相無導者合此一二門一是

事一無導之惣相歟但抄三下云約事如理遍故広不壞事相故狹

故為事一無導之始上已思之

問今何不立同時具足相応門哉答述作隨時不可一定一歟

⁽²⁷⁾章經云此諸花葉文(五九四・中)舍那品卷第云復有大蓮花生○其

葉遍覆一切法界○此花生已如來眉間有一大菩薩出名曰一切

諸法勝音文等

⁽²⁸⁾章三即此花葉文(五九四・中)問此第三門一多無導者与第五相

是門一有何別一哉答一義云彼一是相即門今則託事門故大別也問

此義不尔一今云一即多一復即一一彼云已即是他一即是已一共

是明相即義一何云今則託事門一哉何况下尺第十主伴門一中云

見此花葉即是見於無尽法界云等即是託事門也明知主伴門中

兼、授託事門、然今若別立者彼、何重立哉答、如来難、雖、難、決、而且依抄、一上云疏法門重疊若雲起長空者第九託事顯法生解門、重疊、意顯、一多不、相導、故隨一事、名多法門、以隨一事、即是無尽法界、々々無尽故法亦無尽、如下經云此花蓋等從無生法忍了所起等意明一切因生一果、々々即具一切故、非是託此別有所表也、^上已以此抄、尺、會、今、章、文、如函蓋相称、更有何疑、哉然余、解、尺中、一多相即之言、專在、即門、者、諸祖、一同也、但今為簡此、濫、故第五門云、已即是他等、思之、一、應、知、但、至、下、主、伴、門、中、兼、授、託、事、門、之、難、者、此、難、不、尔、彼、云、是、故、見、此、花、葉、等、者、惣、結、十、門、非、是、別、尺、主、伴、義、至、下、委、可、抄、之、何、為、主、伴、門、兼、授、託、事、門、之、証、扱、乎、問、若、今、第、三、門、是、託、事、門、者、何、但、云、一、即、多、等、一、全、不、明、託、事、顯、法、生、解、之、義、哉、何、況、下、尺、經、意、^中第八云、同、躰、相、入、故、有、一、多、無、導、^文等、准、此、相、入、之、義、通、同、躰、異、躰、而、今、且、別、指、同、躰、相、入、一、名、一、多、無、導、^見タリ、何、云、託、事、門、哉、若、約、緣、起、相、由、以、成、託、事、門、者、如、探、玄、記、^第一云、由、此、大、緣、起、法、即、無、導、法、界、故、有、託、事、顯、法、門、^上大、疏、上、全、同、之、今、既、云、同、躰、相、入、故、有、一、多、無、導、一、明、知、非、託、事、門、也、答、刊、定、記、德、相、業、用、別、立、二、種、十、玄、其、德、相、中、云、六、同、躰、成、即、德、七、具、足、無、尽、德、云、抄、三、下、會、尺、云、其、同、躰、成、即、德、及、此、中、託、事、顯、法、生、解、門、但、名、異、耳、故、彼、自、尺、云、一、即、是、一、切、諸、法、故、与、下、尺、託、事、義、^上已又云、第、八、託、事、顯、法、生、解、門、○、既、言、無、尽、法、界、一、明、知、即、是、事、々、無、導、古、立、具、足、無、尽、一、不、異、於、此、^上已既、會、同、躰、成、即、德、一、令、同、託、事、門、一、其、義、無、違、一、者、今、尺、託、事、門、一、云、一、即、多、

等、一、有、何、疑、乎、但、於、下、尺、經、意、門、之、尺、一、者、凡、託、事、門、者、諸、法、各、々、当、法、自、具、一、切、法、一、更、不、待、外、融、攝、他、法、一、即、隨、舉、一、事、一、見、於、無、尽、法、界、之、義、也、此、義、正、順、同、躰、門、也、謂、教、章、^十云、不、相、由、義、謂、自、具、德、故、如、因、中、不、待、緣、等、是、也、○、即、同、躰、^上已又云、此、一、之、中、即、自、具、有、十、箇、一、耳、^上已探、玄、記、第、一、云、此、一、即、具、多、箇、一、也、^上已彼、此、相、順、之、旨、思、之、一、應、知、一、然、今、託、事、門、雖、通、異、躰、門、一、而、今、且、順、相、順、一、故、以、同、躰、門、一、為、由、也、但、此、同、躰、門、有、即、入、二、義、一、其、相、即、者、能、即、之、多、全、無、躰、故、所、即、之、一、獨、存、故、不、順、此、一、多、不、導、之、義、一、其、相、入、之、義、者、能、入、所、入、其、躰、不、失、一、故、甚、順、此、所、託、之、事、相、彼、所、顯、之、道、理、宛、然、俱、存、之、義、一、故、且、以、同、躰、相、入、一、為、由、一、成、託、事、門、之、玄、宗、一、豈、不、然、乎、^次か、^次於、今、但、云、一、即、多、等、一、全、不、明、託、事、顯、法、之、義、一、難、一、者、尺、文、方、軌、不、一、准、一、隨、時、出、没、何、必、一、相、乎、且、又、下、惣、結、中、具、明、其、義、故、今、省、略、歟、次、於、探、玄、記、約、緣、起、相、由、一、成、託、事、門、一、之、尺、一、者、

(中欠)

章經云以一仏土文(五九四・中)舍那品^卷第^四說花藏界所持雜世

界一中文也

章經云長劫即是短劫文(五九四・中)教章亦引此文一彼指事尺云

第三十三卷不思議品文也云、又第二十八^本印說法雲地入大尺

分、中、智、大、云、一、劫、攝、阿、僧、祇、劫、々々々、一、劫、^至乃長劫攝短劫

々々、攝長劫諸劫攝相皆如實知^上已

章經中東方見入正受文(五九四・中)賢首品^卷第^七

章經云於一塵中文(五九四・中)舍那品^卷第^三云一毛孔中無量仏刹

莊嚴清淨曠然安住。○於一塵內微細国土一切塵等悉於中住^上。然今章有本云微細国土莊嚴清淨曠然安住。又有本但云微細国土曠然安住云。

⁽³³⁾章經云如因陀羅網世界文(五九四・下)十地品^{卷第二}說初地十願

中承事願云又一切世界広狹及中無數無量不可分別不可壞不可動不可說。麤細正住倒住平坦方円隨入如是世界智如因陀羅網差別如是十方世界差別皆現前知^上。十地論^第分文為三。相。初即名一切相謂広明世界形類不同。故是即不壞相行布門意也。次如因陀羅網差別者即名真實義相。也次如是十方□名無量相也。探玄記第十一云二真實義相者如下帝尺妙勝願上有宝珠為網。天珠明淨一珠中現一切珠。々々亦亦互無障礙^上。世界亦尔。○世界実尔故名真實。此是如理智中如量境界。故云唯智能知也。已意云法性緣起世界義相理數実尔。故云真實義相。為言抄三下云論尺云如帝網差別者即真實義相。意明常称実理。故不可尽^上。探玄云実尔。此抄云実理。者如教章云法性実徳法。尔如是。已例准可知。問正見經文。初約法。則明世界広狹。麤細等差別不同。一次拳喻。亦云如因陀羅網差別。後合法。既云如是十方世界差別者法喻合之三段共是。明広狹等。一々世界各々不同之旨。例如梵網經云時仏觀諸大梵天王網羅幢。因為說無量世界猶如網孔。一々世界各々不同。別異無量。仏教門亦復如是。已尔者梵王羅網帝尺。羅網共喻各々差別。義一者而經一同之所說也。今何以帝網。為重々無窮之喻。哉。答而經所說。二喻不同也。宗家

湛睿の『華嚴經旨帰見聞集』について(納富)

梵網疏上云問此中梵網与花嚴中因陀羅網何別答彼是帝尺網。此是梵王網彼網在殿。此網在幢。喻意亦別。彼取宝珠成網。互相影現。弁重々無尽。此取網孔差別不同義。故為異也。已二經所說二喻不同。如是。応知。但於經所說法喻合。三段共明世界差別之難。者若如所難。者法喻合。三段通。可成一義。論主何分為三。相。尺成。各別之旨。哉。定知於今。經文。者不可如。常。法喻合。得意也。然如因陀羅網差別之文。別名真實相。即尺云唯智能知。為是。広狹。麤細等。差別。喻網孔。差別。者可通。妄識之所知。何云非眼所見。哉。又不思議品^{卷第三}云一切諸仏智慧分別一切法界如⁽³⁴⁾因陀羅網悉無有余^上。已

章是故經云過去一切劫文(五九四・下)問此文者何品所說哉。答此文出処実以難定。且抄一上云晉經十住品云過去無量劫安置未來今未來無量劫。廻置過去。是非長亦非短。解脫人所行。已然。細檢晉經^{第八}十住品。全無此文。一又大疏一上云晉經云過去無量劫。○^{金同抄}廻置過去。世等普賢行云過去中未來。々々中現在。已抄三下云引晉經者以文顯。故等取次半云。非長亦非短。解脫人所行。已即當今。經。普賢行品次下所引。言普賢行云。○未來中現在等者。等。取下半云。三世互相見。一々皆明了。即同向引晉經偈也。已准此。即指普賢行品。歟。尔者豈非違前。抄一上云晉經十住品。哉。是然。今依此抄三下所指。正檢晉經^{第十四}普賢行品云過去是未來。々是過去。現在是未來。菩薩曉了知。已大同唐經。故別。無文顯。何云引。晉經。者以文顯。故。哉。是。但今私檢晉經^{第十四}離世間品末後

偈頌云過去一切劫安置未來今未來現在劫廻置過去世十方一切刹皆悉現成壞以一切衆生安置一毛道上雖有上一偈上而無下非長等二句上故是亦難思四又檢晉經第十二本十行品偈頌云無量無數劫能作一念頃非長亦非短解脫人所行上唐經第十十行品云無量無邊無數劫於一念中悉明見知其脩短無定相此解脫行所行道上

³⁵章又云無量無數劫文（五九四・下）抄三下云言普賢行云過去中未來○引即前向引晉經偈也此偈前文復有偈云無量無數劫解之即一念知念亦無念如是見世間上晉經普賢行品前三句全同而第四句云世間無実念上

³⁶章經云此花有世界海文（五九四・下）此非勝音菩薩所坐蓮花也即十地品卷第二說法雲地菩薩受職灌頂中云即時大宝蓮花王出周円如万三千大千世界○十三大千世界微塵數蓮花以為眷属尔時菩薩○身在大蓮花座一即時眷属蓮花上皆有菩薩一菩薩坐蓮花上上今且指所坐蓮花以為主伴之証上而能坐之菩薩亦同顯当門一也問会解記主伴眷属作四句一中当門是何句意哉如前主伴經中引答

³⁷章是故見此花葉文（五九四・下）問自下結尺主伴門歟為当如何答愚案云上文云此經円教至乃果徳円満者是即別結主伴一門也准上來諸門中此是理事無尊門乃至是謂十世門上今亦云皆互為主伴等一明知是別結主伴門一也然自下惣結十門一也謂今見当段前後上惣標十門一云且如經中一蓮花葉即具此十

義一者此指勝音所坐蓮花一也探玄記演義抄如上具引一然後次第別尺十義一竟今惣結意云既仏前現花一通表一部所詮花嚴一其所詮者即十玄等也是故当知見此花葉一即是見於性相広狹一多相入等十種無導一全非下此眼前所見蓮花外別有中性相等所表十種無導上為言一既上惣標云一蓮花葉即具此十義一以十是無尽義一故今惣結云見此花葉即是見於無尽法界一豈非標結相順乎問此義不尔一其十門惣結者即次下云此花葉既具此等十種無導等一是也明知今云是故此花葉等一者此別結主伴門一也如何答此難不尔一彼即所依鉢事有十对二十事中且明一花事具十種無導故指例余事余对一故云此花葉既具等一全非結上十種無導之義相一也然今正結尺一花事具十種無導一之義相其義相者見此花葉一即是性相無導乃至即是主伴無導非是託此花事一別有所表之性相等一為言一若但結主伴一門一者前九種無導不可有下見此花葉一即是見於性相無導等一之義上歟若謂尔一者抄云仏前現花通表一部所詮花嚴文此通所表一之所詮義中可有下所不攝之花嚴法門上争得然一乎明知今惣結十門也問今云見此花葉即是見於無尽法界等一者依探玄大疏全是託事門之義也然如所立一者十玄中以託事顯法門一為惣鉢一其託事所顯之法門中可攝余相入等九門一歟若謂尔一者大疏尺同時門一云或一微塵則具教等十对一同時相応具足円満亦具後之九門及彼門中所具教等一以是惣上故上抄下尺云言則具教等十对等者当門中具也亦具後之九門者明具余門一也若唯具当門一不

成惣故意取是即以同時門一為惣一以託事等九門一為別一豈不違此尺一哉答

釈經意第八

問當門來意如何答凡信解邪正淺深偏依因由邪正等一且如勝論順世兩外道一亦評所生子微涉入能生父母極微一故唯識論第一合破此二師一中揲彼計一云若謂果色遍在自因文等果者所生之子微也因者能生之父母極微也委如述記第一本因明疏中卷尺之是則以因由不正一故成外道邪執一也又三乘教雖說芥子須弥等相入一而如教章施設異相云若以神通不思議力容得暫現非是彼法自性如是已故知諸法涉入無導之義雖外道内道皆悉談之スト但因由不正故或由橫計一成邪執一或得業用一失德相一故筆削記第一云若因不正宗義亦邪已依之今弁十所因一成法界円融事之無導之玄宗一是為自家不共之極談一也他宗不知此旨一故即如円覚略抄四下云三諦融即方成下三重中第二理事無導觀也事之無導尚未顯著已會解記第六云若賢首本宗花嚴円教一具同別二門一十之無尽ナリ汝宗三觀三諦円融一尚得同一門之義已此並対天台一如是簡別也

⁽³⁸⁾章略弁十種文(五九四・下)探玄記云一縁起相由故二法性融通

故云等広尺初縁起相由一竟後惣結云余門如指帰中説已大疏至

下一隨文一次第引之如是列次不同也又有開合加減一至下一可

湛睿の『華嚴經旨帰見聞集』について(納富)

知一又依大疏則今五六七唯是業用因而通因果一第八義通德相業用一余六通約法性一為德相因一法尔如是云々

⁽³⁹⁾章初無定相者文(五九四・下)大疏云初唯心現者〇二無定性者

既唯心現從縁而生無有定性性相俱離小非定小一故能容太虚一

而有余一以同大之無外一故大非定大一故能入小塵一而無間以同

小之無同一故〇旧經十住品云金剛囲山等文今同問無定相云大

疏云無定性一尔者与彼依他無性即是円成之義一為同一為異一

答不同也今云無定相一者以真心不定自性無定大定小之相一故

真心所現大小亦無定相一即小塵能容大虚等然依他無性

即是円成者会事一帰理故大不同也問縱雖法無定相一何必以

此一為即入無導之因由一哉答決択第六尺大疏云中隨一即

能令彼諸法渾融無導一之文云勿謂諸法本不無導一由此十

種中彼無導上但令根信一故置令言一如人遙樹下有水一余人

不信一乃問前人一何以得知樹下有水一前人答曰樹有白鷺一故

能令彼信一知有 水一勿謂水本は無 白鷺令有上但彼白鷺表

有水一因ナリ今此亦尔已意云樹下自本一有水一而人不信一故指下於

水一有縁一之白鷺居中樹上上即令知樹下有水一為言 故知今法無

定相之義於大小一多等即入無導之宗法一有縁一故舉此一令表一

知諸法即入自在不中相妨導上非謂諸法本不即入一而由無定

相一方始令即入上也余門亦可准知一但

⁽⁴⁰⁾章二明一切法皆唯心現文(五九五・上)抄三下云心能變境之須

似心心既無導境亦無導况真心所現揀異妄心真法具德故能即

入重々無導^上如此尺^一者能現之心本具無導^徳故所現之万境亦自備無導義^一即入重々也^{為言}此事不可卒尔^一更可思案之^一問今唯心現者真心歟妄心歟答教章尺唯心廻轉善成門^一云此上諸義唯是一如来藏自性清淨心轉也但性起具德故異三乘耳^上此上諸義者教義理事等^十对也大疏云初唯心現者一切諸法真心所現^{文等}抄尺云揀異妄心^{具如}此等並局真心^一也但今章作兩尺可通妄心歟然禪源詮云性相二宗互相非者即由不識真心^{等文可見之}故知今云唯心者正是真心也但以一心具二門^一故或有約生滅門^一以妄心變現^一尺所變万境無導虛通^一亦不可遮此義^一也

⁽⁴¹⁾章是故大小廻轉文（五九五・上）問今作兩尺^一如何簡別哉答且有二義^一一義云初尺全同大疏^一歟彼疏云一切諸法真心所現○大小等相隨心廻轉即入無導^上後尺約妄心^一歟一義云兩尺俱約妄心歟初尺意云心念小相^一則小相顯現若念大相^一則大相顯現如是二相俱時變起全^一在同處^一以心無導^一故境亦大小無導也此約^下一人變起大小二相^一而同處俱時無導自在^上也後尺意約多人^一且如下人天鬼魚於一水境^一同處俱時變中起^{スルカ}瑠璃濃河窟屋^上雖彼三乘教意但謂各々業力不同^一而一乘意者四類有情俱是有為事心而同處同時各別變起諸相^一互不障導^一正是事々円融義也故云彼心所現此心於彼等也問此義不尔^一且初尺約一人者一心中争得大小二相^一行解俱時現行哉後尺約多人者只是業力不思議也何為事々円融之義^一哉答

⁽⁴²⁾章下文云彼心不常住文（五九五・上）夜摩天宮菩薩說偈品^{卷第十一}如

來林菩薩偈云心非彩画色^一彩画色非心^一離心^一無画色^一離画色^一無心^一彼心不常住^{等文全如今所引}彼惣有十偈^一初六明心作^一凡後四明心起聖^云後四者即今如心偈也然今所引是初六中次二偈也彼心者画師心也探玄記第六云次二明画心造画^一云安依心^一○此中意說一切衆生皆依真^一緣起本識之心隨名言有支我見等^一熏^一有六道身現^一緣起虛似不導無^一不壞有^一是故會攝有其二門^一若會緣^一從実^一即差別相尽唯一真如^{ナリ}若攝末^一歸本^一即六道異形唯心而轉約初^一緣起不存^一是真如門^{ナルカ}故約後^一緣起不壞^一是生滅門故是故存壞無二唯一緣起二門無導^一唯是一心故起信論云依一心法有二種門^一○次二偈明画像依尽心喻後生滅門^一此画師心^一喻本識等能變之心^一画色^一喻五蘊身所變之報^{等文}

⁽⁴³⁾章三明一切如幻事故文（五九五・上）探玄記十五^{十忍}云如一幻兔^一有其五義^一一所依之巾二幻師術法三所現幻兔四兔生即是死五愚少謂有^一於中^一巾喻所依如来藏^一二幻師及術喻能起因緣如無明等三幻兔之相喻依他起性^一四兔存即亡喻依他無性五凡小謂有^一取為人法^上二中云及術者經云持咒得成者是也章謂如幻法文（五九五・上）大疏云猶如幻師能幻一物^一以為種々幻種^一物^一以為一物^一等^上抄四上云四十二經云仙子譬如幻師持咒^一得成^一能現種々差別形相^一咒与幻^一別而能作幻咒唯是声而能幻作眼識所知種々諸色^一等^上

問今三四如幻如夢者並是喻也尔者若約法^一則与彼法無定相唯心現等有何別^一哉答大疏云一唯心現故^一二法無定性故三緣

如下引會解記一應知一問此義不尔

章下(52)文云以一仏土文(五九五・上)問大疏七因無限故八仏証窮故云、然引此文一為仏証窮之証、如何答會解記第八云然拋旨歸一此証在因無限中、彼解云無比功德者出所因也、意以無限善根一為無比功德、以此一為因、即因由之因也、若此疏第七即昔勝因此亦探玄自改、以分因果之殊、今疏所用尔、已意云旨歸不論因果二位之別、但以無限善根、所生起一之仏土、故有、彼此即入而不壞本相、等之義、惣名因無限故、即此外不別立、仏証窮一故、一者此意也、故知以無限善根功德、一為因由、一故云因無限也、然至探玄記云六無限因生故七果徳円極故、已既因果別論、故其所引証文亦応各別、一故大疏依用如是立義引証、一也、但探玄記標列而不尺、一須依大疏、一知其意也

章九縁起相由力故者文(五九五・上)探玄記就此一因、一広開十門、一(53)大疏全写之、然今章撮機要、一故正述彼第十同異円備義之一門、一意、一兼顯前九門中少分之義趣、一今略次、次第可指示之、一

章謂一与多文(五九五・上)自下三句即當彼初三門惣明、縁起本(54)法、一也、凡縁起相由者、正是指初三門、一以此相由、一故有後七門、一故云有如此相即相入等也、即入二門亦為余玄門、一作因由、一故至第十同異円滿義、一正明此義、一即今下文所尺、一者是也、問今云一与多互為縁起相由成立、一者偏似、第二互徧相資義、一也、如何答不尔、一如第一諸縁各異義、云諸縁相望要須躰用各別不相和雜、方成縁起、一若不尔者、失本縁法不成縁起、一故知相由成立之義

專由諸縁各異、一也、何況次下躡此文、一生下起後、同異二門各有、即入之義、若非此文、兼中含諸縁各異義、一者彼何得尔、一哉、即次下抄之、一既令初二兩門、一其第三俱存無尋義、一應知、一

章此有二種文(五九五・中)自下明此、異躰同躰各有、即入二種(55)故知通攝第四已下法門也、問此義不尔、一今標、此有二種、一即下云一約用、一相持相依、一約躰、一能作所作等、一者文言義相全、但同第四第五、兩門、一如下引、故知此惣標偏局、異躰即入、一不可通冠、一同躰即入、一如何答次下云、此二復有二義、一異躰相望、一一同躰内具徳、一此二者即躡、今云、此有二種、一之二種、一而生起後、異躰同躰、二義、一也、文相、次第隣次必然、一更不可及預義、一尔者、今云、此有二種等、一豈不通冠、同異二躰、一哉、但於文言義相偏同四五兩門、一之難、一者至下、一次第具引文、一可示、一

章一約用、一相持相依、全躰相収文(五九五・中)此文通、攝異躰同躰、各相入義、一也大疏云、四異門相入義、謂諸門力用、一相依持、一能持多、一是有力量能持於多、一依於一、一多是無力潛入、一内、一(56)○如一持多、依既尔、一多持一、一依然反上思之、一已又云、七同躰相入義、一謂一縁有力量能持多、一、一々々、無力依彼一縁、一各尺相入義、一並云、一持多依等、一即今惣云相持相依、一者明知通攝也、一

章二約躰、一能作所作文(五九五・中)大疏云、五異躰相即義、一得(57)此一縁、令一切成起、所成起、故縁義方立、是故一縁是能起、能成、故有躰多縁、是所起、所成、故無躰、一又云、八同躰相即義、謂前一縁所

具多一亦有之、躰無躰之義故亦相即。○由本一有躰能作多一令一、攝多如一有多空既亦多有一空亦然。已今章文通攝此二門一思之可知。

⁽⁵⁸⁾ 章此二復有二義文(五九五・中)自下即當彼第十同異円滿義一、
知

⁽⁵⁹⁾ 章謂異躰相容具微細義文(五九五・中)大疏尺微細隱顯二門中

全写今、自下、四句、文、彼抄三下尺云由異躰相容者即別、取前第四異躰相入門中一半之義、然入通、能入取入一多、就能一說容亦有、能容所容一亦就能一說、然所入即是能容所容即是能入今微細門但取容義一不取入義一故云一半、異躰相即具隱顯門等者尺此隱顯一疏有三重、此即初也、若尔相即応同隱顯一耶答上来、九門、但有即入同異四義一用斯四義一以成十玄一故一義中容有多義一此中由此即、彼一故此隱彼顯由彼即、此一故彼隱此顯由相即一故成隱顯義一成門一已竟義則不同一謂相即要此彼合一、隱顯則彼此皆存、如東方入定一、身在東一西方定、起一、身在西故二不泯況具下二義一尤異相即一也、上下二義者至下可引問探玄云由以異門攝同躰中相入義、故現微細門也、已與今文一同異如何答不同也。

⁽⁶⁰⁾ 章異躰相是具隱顯義文(五九五・中)大疏尺此隱顯義一惣有三重一

是初重也抄、尺如上引一後、二重者疏云又就用相入為顯令就躰一相即一為隱一、即顯入隱亦然、又由異門即入為顯一、令同躰即入為隱一、同顯異隱亦然、已問探玄云由一攝多一時為、顯一令一入多一

為隱一多攝一入亦尔又就用一相入為顯等文全、是則探玄亦有三重一、尔者彼初重与今文及大疏、初重一同歟異歟答

⁽⁶¹⁾ 章謂同躰相入故有一多無導文(五九五・中)諸法各々当法本自

具一切一故更不待外融攝、余法一即随举一事一見於無尽法界一故云同躰相入等一即是託事門也、委如上抄之一、如彼広狭門者於一法上、一約称性一云、広一約不壞相一云、狭一是亦順同躰門一、有多空之義一委如下抄之一

⁽⁶²⁾ 章同躰相即故有広狭無導文(五九五・中)問今章意以縁起相由

中、何義一、成広狭無導一哉、答章云同躰相即等一、明知以彼十門中第八同躰相即義為由一、成之一也、問探玄大疏共云由住一、一遍応一、故有広狭自在門一、抄尺云即前本門第二門也住一、故狭遍応故広一、第二門者探玄云二互遍相資義謂此諸縁要互相遍応方成縁起、且如一縁遍応多縁各与彼多全為一、故此一即具多箇一也、文等准此一、会今、文一者所具之多一、廢己一、同能応之本一、故云同躰相即一、今多一、廢己一、歸本一、者是由所歸本一、有称性德故、豈非広哉、然所同之本一、不壞本相一、故狭也、明知以第二門一、為由一、可成此、無導一、何云以第八門一、為由一、哉、答凡広狭門者於一法上、一約称性故、広約不壞相故、狭也、彼探玄等、意一縁遍応一、多縁一之義、尤順広狭自在一、故以第二門一、為由一、成此、無導一、如上引成一、准彼一、会今、一亦可無所乖歟、但今章以第八門一、為由一、歟、故探玄云八同躰相即義、謂前一縁所具多一、亦有躰無躰義、故亦相即以多一無躰、由本一成多一、即一也、由本一有躰、能作多一、令一攝

多如有一有空、既尔ニルカ多有一空亦然、上大疏全同也、既今文云同、
躰相即、豈非指此門、哉、但彼門、通含一有多空、多有一空等之諸、
義、今且取一有多空之一半、為由、歟、謂一有不壞相、故狹也、由、
一有称性德、故攝他、帰己、一時令多空、故広也、准下前、微細、義取、
異躰相入中、一半、為由、可知之、

章⁽⁶³⁾又由異躰、攝同、故文（五九五・中）探玄云、由異相入、帶同躰相入、

故有重々無尽、帝網門也、上大疏全同之抄尺云、同躰相入、一中、已

含於多、更入異躰、故有重々之義、文等

章⁽⁶⁴⁾相関互攝、得有主伴、文（五九五・中）探玄云、由此法門、同一緣起、

相帶起、故隨有一門、必具一切、故有主伴門也、上

章⁽⁶⁵⁾下文云菩薩文（五九五・中）十忍品卷第二十九說如幻忍、中云此菩薩

深入諸法、皆悉如幻、觀緣起法於一法中、等文全探玄記十五云、此依

相入門、以合如幻緣起、可知、上同、此次上云、又此文云、深入如幻

於一法中、解衆多等、此約法性融通力也、上問、自下惣結、十門、以

引証、拋、今何引相入一門、哉、又今即緣起相、由門之惣結也、何引

約法性融通、之文、哉、答、

章⁽⁶⁶⁾又云一中解無量、文（五九五・中）光明覺品卷第五全如今所引探玄

記第四云、一中解無量等者、為明此一會等中、而有無量會等、

々々、中而是一會、是前光明所照、処也、於中初二句、標次一句、尺

後一句、益標中、通論此有同躰異躰、各有相容相、即、此文且、明

相容、故云一中無量等、然、通同異躰也、二尺中、略舉二因、一、以尺

一、由展轉生、故二、由非実、故、初門者、惣攬如此、尽窮法界差別之

緣、成一緣起、是故一、諸緣相望、各有二義、一、約躰、具空有、

義、故有相、即、二、約用、有、力無力、義、故有相入、○、由緣起門

中有此、相作等、義、成一多、故云展轉生、也、此即一多更互展轉

生、故得一、中無量、々々、中、一、也、二、非実、故者、亦二門、一、相、即、義、謂

一、非実、一、故、能、攝、多、々々、非実、多、故、能、即、一、又、多、非、実、多、故、能、攝

一、々々、非、実、一、故、能、即、多、○、二、相、容、門、者、謂、一、事、是、不、実、以、無

性、故、無、性、真、理、既、無、分、限、是、故、於、一、事、上、觀、無、性、故、無、不、円、カニ尽

法、界、真、如、若、觀、一、小、事、無、自、性、時、不、得、円、カニ尽、法、界、真、者、即、真、如

有、分、限、同、有、為、是、故、一、事、無、性、即、攝、真、スルカ尽、々々、時、余、一、切、法

既、不、存、而、即、真、故、同、理、俱、在、一、事、中、現、多、中、亦、尔、准、之、

又、由、俱、不、壞、本、事、故、不、是、相、即、門、也、由、不、実、之、事、攝、真、理、故、得、相

入、也、又、可、前、展、轉、生、約、異、躰、即、入、此、門、約、同、躰、即、入、思、之、又、但、此

經、中、相、即、相、入、義、尺、皆、有、二、門、一、約、緣、起、相、由、門、二、約、法、性、融、通

門、故、是、此、二、文、也、又、由、展、轉、生、故、不、実、即、一、門、不、別、上已、就、此、經、文、者

刊、定、記、難、此、探、玄、別、立、自、義、大、疏、抄、破、彼、刊、定、還、助、探、玄、如、是

広、有、立、破、故、具、引、示、之、

章⁽⁶⁷⁾若唯約事、即互相礙、○唯約理性、則唯一味、文（五九五・中）有本

云、若唯約事、相則互、云々

章⁽⁶⁸⁾則真理有分限、失文（五九五・中）問、縱有分限、是何失乎、答、探玄

記、四、云、同、有、為、文、即、如、上、引、

章⁽⁶⁹⁾舍那品云於此文（五九五・中）問、此經文、偏說、事、々々、無、導、之、宗、

全、不、明、称、性、融、通、之、因、由、今、何、為、當、門、之、証、哉、答、上、尺、所、標、十、義、

第一性相無導、中引同品文、云法界不可壞蓮花世界海^{云等}、又說經處、歸花藏中、私引諸文、明花藏界事、理現之旨、又還源觀云、故經云如此花藏世界海中、無問若山若河、乃至樹林塵毛等處、一々無不皆是稱真如法界具無^{文等}、故今章主正、得此等意、故引為証也

⁽⁷⁰⁾章解云一切法界文(五九五・中)大疏於此、法性融通門中、引唐經今文、云花藏世界所有塵一々、塵中見法界々々、即事法界矣、此、全用今章、也又於十玄、同時具足相応門中、亦引此文、為証、即尺云一塵尚具况一葉耶、^已彼抄三下云問但言法界、寧知非是理法界、耶答曰以下半云、宝光現仏如雲集、此是如來刹自在、^ト明知是合、^レ事法界、^{ナル}耳、^上下半者即當晉經、次偈云一切諸仏雲放宝光明照是盧舎那刹有無量自在、^上此抄、問答尤肝要也、又若依行願記

(中欠)

明經益第九

問當門來意如何答孟蘭盆疏新記^{元照}云、凡論判教、一觀正宗所詮行相、二考聽衆結益淺深、三求文義意趣優劣、行是一經之主、益被物之功、文即能詮之、^ト用斯以判無往不通、^上准此、^ト前顯經意、^ト即是正宗所詮、故次応明聞、其正宗、所詮方有聽衆結益也、⁽⁷¹⁾章略撰經文、顯其十種文(五九五・中)、直依今章意、則円經、広說海

會、衆得益、中或有說、見聞益之文、或有說、発心、益之文、等撰、束如是、一文、以顯十種、^ト若依大疏、云教起十因者、一法、^ト故二、^ト酬宿因、故乃至十利、今後者有二、一利、今、即仏在、當機、二利、後、即今之聞見、又此利益別、^ト對前、九、^ト成十種益、^ト一聞法、^ト則成見聞、^ト益、^ト取意、^ト但今章、不釈教起、因緣、而偏明此、十益、^ト故何必對十、因、⁽⁷²⁾成十益、哉、思之、^ト慮知

⁽⁷²⁾章初見聞益者文(五九五・下)問見聞如來者住持別相中何、如來哉、答有人云、見聞如來者在世別相之仏也、及此遺法者滅後住持之教法也、故知見聞、機可通在世、^ト云、^ト但此義、不尠、余、^ト經文解尺等置、而不論、且於今尺、^ト者不可及預義、^ト見聞如來者滅後住持之仏宝也、今舉住持、^ト仏法二宝、^ト故下引証經文云、如來塔廟等、^ト何以此尺、^ト為見聞機通、^ト在世、^ト之証、^ト扼哉

問今云見聞者其所見聞唯局三宝善境界、^ト歟、答大疏一上云、一聞法、^ト則知常徧成見聞益、^ト抄一下云、一以法、^ト尠常說徧說、^ト便能觸目對境、^ト一切時中、^ト常如法見、^ト所引經文、^ト如前、^ト惣中、^ト上、^ト所引經文者、^ト不思議品、^ト普遍常轉法輪文也、^ト准此、^ト開、^ト円、^ト信解、^ト對、^ト万境、^ト時、^ト見聞、^ト覺知、^ト無非、^ト仏、^ト然、^ト則、^ト風、^ト吹、^ト樹、^ト頭、^ト悉、^ト是、^ト國、^ト土、^ト身、^ト盧、^ト舎、^ト那、^ト之、^ト說、^ト法、^ト鳥、^ト翔、^ト空、^ト裏、^ト豈、^ト非、^ト衆、^ト生、^ト身、^ト遍、^ト照、^ト尊、^ト之、^ト妙、^ト用、^ト若、^ト如、^ト是、^ト信、^ト解、^ト則、^ト觸、^ト目、^ト對、^ト境、^ト悉、^ト成、^ト普、^ト法、^ト見、^ト聞、^ト大、^ト益、^ト即、^ト今、^ト所、^ト引、^ト疏、^ト抄、^ト正、^ト存、^ト此、^ト意、^ト也、^ト又、^ト三、^ト聖、^ト円、^ト融、^ト觀、^ト云、^ト若、^ト與、^ト此、^ト觀、^ト相、^ト應、^ト則、^ト觸、^ト目、^ト對、^ト境、^ト常、^ト見、^ト三、^ト聖、^ト及、^ト十、^ト方、^ト諸、^ト仏、^ト一、^ト即、^ト一、^ト故、^ト心、^ト境、^ト無、^ト二、^ト故、^ト上、^ト問、^ト抄、^ト一、^ト上、^ト云、^ト此、^ト經、^ト宗、^ト明、^ト三、^ト生、^ト円、^ト滿、^ト文、^ト今、^ト經、^ト宗、^ト意、^ト令、^ト三、^ト生、^ト円、^ト滿、^ト之、^ト見、^ト聞、^ト者、^ト局、^ト見、^ト聞、^ト花、^ト嚴、^ト法、^ト門、^ト歟、^ト為、^ト當、^ト通、^ト三、^ト乘、^ト小、^ト乘

等見聞^ニ歟^一答一義云唯局花嚴法界法門^ニ也其故者凡此三生円

滿者且就頓悟一乘之機一明從凡入聖之相^ニ故知若見聞三乘等

法^ニ是即漸悟迂廻之得益全非此例^一也故今章云依此普法見聞

如來^ニ又下尺造修益^ニ中云如善財前生曾見聞普法^ニ五教

章^{行位}探玄記^{第十}八尺見聞生^ニ皆云見聞普法成金剛種^ニ思之可知

章若有得經卷起如來塔廟文^{（五九五・下）}問晉經第三十七性起

品^{明性起見聞敬養善根}中云若有得經行地如來塔廟^{乃過思}

議故^上今章所引全同本經文^一但今云經卷起^一現行經本云經行

地^ニ余無一字加減^一者何為正乎答探玄記十六云^一若得經卷

下合地土等明^一仏滅後益^上准此^一所撰^一則以經卷^一可為正^一歟^一

者經卷是為上遺法之証^一起如來塔^一即為上如來之証^一明知現

行經本是伝写之誤歟問唐經五十二云若有衆生供養如來所經

土地及塔廟者亦具善根滅除一切諸煩惱患得賢聖樂^上既唐訳

云所經土地^一明知以經行地之本^一可為正^一況探玄雖撰^一經卷^一

而尺成之^一云合地土等^一者次上經文^一舉藥王樹喻^一明^一見多聞香

等則六根清淨及取彼樹所生地土^一衆病悉除之旨^一故合法中亦

初明如來在世作六根境界是合藥樹見聞等^一次今所引經文即

合取^一彼樹王所生地土^一尤可云得經行地^一何云經卷^一哉明知以

現行經本^一可為正^一何況遍檢經文^一諸本一同也^一今章所引

探玄所撰共是可伝写之誤^一歟如何答晉唐兩經多有不同^一又普

賢行品云如向所說是微妙說^上和国古來流伝又五千七千藏經

又延慶新渡宋本並皆云微妙^一然探玄記^{六十}撰尺此文云先惣標

少說^一○尺有二義一約近^一如前小相品所說令諸天子成普賢行

是微妙說^一○二約遠^一即五周因果如前第二周是微妙說^{文等}如此

撰尺^一者^一應云微妙^一一定知微妙之妙^一字誤也此外

章^二發心益者^文（五九五・下）大疏酬宿因^一中有大願力昔行力^一

故尺今益^一者^一二聞本願行^一學^一仏^一發興成發心益^上今云稱仏境

等^一者頗似此義^一歟但案章主意^一未必然^一歟如下別抄^一一應知

章稱彼仏境文^{（五九五・下）}案云若准前序^一云^一無尋鎔融盧舍那

之妙境^一者如毗盧法界円融無尋^一起信^一開解^一故云^一也若

依^一下引証文^一者即發心功德品^{卷第九}云初發心菩薩即是仏故悉

与三世諸如來等亦与三世仏境界等悉与三世仏正法等得如來

一身無量身三世諸仏平等智恵所化衆生皆悉同等^{文等}探玄第五

云尺果等^一中^一初一句惣^一二別三結初中即是仏故者^{○委細尺}

別中有十五句^一初五句約仏^一内德盈滿等^一後十句約仏外用普周

等^一初中一惣四別^一中初二所依法等^一俗諦境^一二真諦^一後二能

依德等^一一身二智^一外用中初一惣余九別^{文等}此文且雖俗諦名

仏境界^一而今即惣指彼内德外用^一云稱彼仏境^一也加之梵行品

云初發心時便成正覺^一既云初心成正覺^一豈非稱^一彼仏境^一哉

章此心即是普賢法攝文^{（五九五・下）}此二句通伏難^一歟其伏難者

大疏三下^品云問約法相収是則可介約人修行豈十千劫修信

纔滿即得如此無辺德海答以法是円融具德法故若諸菩薩行此

法行是彼所収^{文等}今云普賢法者非人普賢^一是法普賢即円融具

德法也伏難及會通並例准^一可知

章三起行益者文(五九五・下)大疏十因中七說勝行一故云、又云

七聞行一發意一修行成起行益_已彼說勝行一中一頓成諸行二遍成諸行_等今但明頓成諸行一也

章略頭六十種文(五九五・下)普賢行品_{卷第三}初長行中先明所治

惑障、廣大云起一瞋恚心者受百千障導云、即是五位之能障也後明能治、普賢行廣大一即有六十種一謂十種正法十種清淨法十種正智十種巧隨順入十種直心十種巧方便法也是如說竟、勸_ス文云得聞此法以少方便_{等文全如今所引}探玄記十六尺云以普賢行

必一攝一切故是故以少功力一疾得菩提一此方便者是功用也_已章如十信中有十住文(五九六・上)大疏四上品_{發心}云通說諸位相攝

惣有三類一以行攝位如信中具一切位如賢首品說二以位攝位如十住滿即得成仏如十住品及法界品海幢比丘処說其十行十

向十地皆尔各如自品說三初心攝終如十住初心即攝諸位如此品說_已今章亦有二類一初以行攝位如文_已二者十住等中_下以位攝位_下准疏一思之_下是五位互攝也三者又云在於一地_下

直引文証一以明惣弁相攝一也故所引文意全異第二五位互攝一思之_已此文者淨眼品初列普賢等菩薩衆、後歎德之文也

章五速証益者文(五九六・上)今章以兜卒天子一為速証益_{然抄}一下云言速証益者如前教迹中一生円曠劫之果中弁_已前教迹

中_抄一先引法界品善財於一生内則能具足普賢諸行之文_已次下云及威光太子亦是一生円多劫之果_已問此速証者与下頓得一

有何別一哉答至下第九益中一引決_已更可加新簡一

章得十眼耳等文(五九六・上)問兜卒天子地獄依身者見聞生攝

歟為当解行生所攝歟答云、兩方若云見聞生一者円經說光觸益、云令彼衆生十種眼耳鼻舌身意諸根行業皆悉清淨○皆大

歡喜命終皆生兜卒天上文十眼十耳等益者即是解行益也既得此大益一豈非解行生所攝哉若依之尔者自防遺忘集_{第三}正尺天

子三生、云未入地獄名見聞生自獄而出生天上空音声属耳隨悔宿愆得離垢三昧名解行生不離天処見仏法身名証入生何以

故天子不改分段身故_已准此一生天已後名解行生一不可通地獄身_{見タリ}如何答行位章約果報一明三生一中云一成解行位謂都

卒天子等從惡道出已一生即至離垢三昧前得十地無生法忍及十眼十耳等境界_已准此一明知地獄身是見聞生終心故偏以生

天已後一為解行生也何況解行位即一生必窮因位一故云一生即至等一也然若以地獄身一属解行生一者豈非隔生一哉但於十種眼

耳鼻等之經文一者大疏八下_{隨好}尺云先令離苦淨宿善益_已其宿善者唐經_{四十}云諸天子汝以心不放逸於如來所種諸善根毗盧

遮那大威神力_已大疏尺云初示宿因一謂昔逝善友一必聞普法一成金剛種一心不放逸顯會修行種諸善根一通見聞等一_次毗盧下

顯其現緣_已准此一十眼十耳等普法金剛種為業障一_所纏縛一今蒙遮那神力一忽離洞然猛火之極苦一故云十種眼耳等皆悉清

淨一非謂實得普解普行之大益一也問此義不尔探玄記十六正尺此文云令淨十眼等者以彼衆生宿有見聞普賢法種復遇舍那法

界光觸故得十眼普賢之益_已如解尺者非但淨宿善一實得解行

頓成之益見タリ如何答

章悉得十地諸力莊嚴具足三昧文（五九六・上）經文具云皆悉

成就衆生界等身口意業滅一切障見百千万億○七宝蓮花

一々花上皆見菩薩結跏坐放大光明彼光明中見衆生界等諸

仏結加趺坐隨所応度而為説法猶未能見離垢三昧之少分也文

探玄記十六云以是普賢諸位相攝大善巧法是故創得出地獄已

得此普法即得十地明与三乘漸次教不同也於中初得位益二

行成益三勝報益四滅障益五見仏益六結益分謂雖得十地因

滿二簡不同果故云猶未能等也上已

章皆悉成就衆生界等善身口意文（五九六・上）問衆生界等之等

字其義如何答今引小相品文此次上文云以法界虚空界衆生界

等身口意業以衆生界等身衆生界等頭衆生界等舌悔過四障

上已探玄記十六云以法界等教懺悔方便此是普賢広大甚深

懺悔故称法界也上称法界之称字是尺等字一歟猶不明了也

然同卷尺性起品性起菩提十二量等身中云謂得能同一切衆

生身之身也等猶同也○又尺等猶遍也即以一切衆生而作

自身也上大疏九上出現亦同之例准可知

章六滅障益者文（五九六・上）問今滅障益者唯局聞香衆生一歟為

当通攝兜卒天子一歟答一義云而師不同也直觀今章以兜卒

天子頓得十地為速証益以聞香衆生為滅障益故云如前

兜卒天子得十地已一々毛孔等也意云天子自身得速証益已

□作妙香普熏衆生今得滅障益故下文云前兜卒天子非

直自身等然依抄一下云言滅障益者即一断一切断如随好品

天鼓教以等法界三業悔過兜卒陀諸天子得無生忍又諸

天子以香花等供仏而成大益若有衆生身蒙香者○一

切業障皆得銷滅皆滅障益也上准此滅障益中双攝二類

也但此抄尺轉利益中偏以聞香衆生為滅障益見タリ如次下

引会通之一義云而師意同也且小相品惣有四類一兜卒

（中欠）

非真修故上問前起行益与今造修益有何別哉答下引決一可

見之見之

章善財一生皆得文（五九六・中）探玄記第二十云一生皆具者約

普門該攝况又此一生亦攝多劫上大疏十下云謂即凡身一生亦

解行生故上抄廿下云疏即凡身一生者約円融説亦解行生者約

行布説上探玄大疏共作兩尺可会同一歟

（中欠）

章九頓得益者文（五九六・中）抄云如下六千比丘善財童子○

法界品初菩薩頓証等上問此十種益所列次第有何所以一哉又

三八五九之四益如何簡別哉答抄云此十種益出於旨帰彼次

第云一見聞益二発心益益列名九頓得益十称性益此依從淺

至深自利々他等而為其次上決一決二決三問起行益速証益与

造修益頓得益何別答前二自利後二利他故各別也又起行益顯

依此法一少作功力疾得菩提造修益揀依余法縦経多劫不能

真修速証益約時不淹留頓得益一法非漸次上先問意云起

行与造修何別又速証与頓得何別為言此答意者以抄尺云自利
と他等而為其次一故如是尺歟但案スルニ彼抄一速証頓得而益中
共引善財一生円諸位一以証兩益一並如上引何必以速証一為自
利一以頓得一為利他哉又當章彼抄共以法界品初頓証法界等一
為頓得益一豈是利他哉又起行造修別配二利一是亦不然一見上
来引文解尺一自可知之間若尔如何可得意一哉答抄云此依從淺
至深等者准此尺一今案云從初一至五一是淺深次第也一應知六七
是自利と他之次第也謂前第五以地獄天子自頓得十地一為速
証益一故是即自利也然後天子從自身一毛孔一化出妙香蓋
雲一普益衆生一其聞香者頓滅無量煩惱一是為第六滅障益一其
見蓋等為第七轉利益一故並是利他也然抄云自利と他等二者等
取余義一也謂第八九是漸頓次第也以第八中一生之言猶通行
布一故造修之義兼約三生一故豈非漸次一哉第九頓得一應知一上来
九種多約修生一第十專明本有一故知是修生本有之次第也
章如六千比丘文（五九六・中）此六千比丘雖廻小入大之漸機ナリト

而大疏序云象王廻從六千道成言下上思之一應知問今引四品一
中且初引法界品一於彼品中一有本末二會一須先引本會衆海頓
証一後引中末會六千比丘上今何倒引哉答
⁽⁸⁸⁾章又性起品文（五九六・中）卷第三十七云說此經時百千仏刹微
塵等菩薩得菩薩一切明一切三昧一受一生記一當成阿耨三藐三
菩提一一仏刹微塵等衆生發菩提心一我等悉与受記一於未來世一
當成仏道一悉同一号と仏勝境界上此是証法諸仏授記故云我

湛睿の『華嚴經旨帰見聞集』について（納富）

等悉与等一也探玄記十六云初菩薩位滿益一切明トイハレ是智也
二衆生発心益同号勝境者以縁性起勝法一為境ト一発心スルヲ一因立
此名上已問如此文一者一生補処位受当作仏之記別一全是次第
漸次之得益也何為頓得之証一哉答
⁽⁸⁹⁾章又発心品所得益文（五九六・中）卷第九云法惠菩薩說是発心
菩薩功德藏一時万仏世界塵数衆生皆得初発心菩薩功德之藏一
発阿耨タラ三藐三菩提心一我等今者悉授彼記一於未來世一各
於十方一時成仏同号淨心文探玄第五云由此心藏攝徳一円淨
故名淨心上已

（中欠）

正和元年子壬四月五日至同八月二日以公私之余暇漸と集文義
其後連と重加潤色是則雖恥ヲモ有コト先達之被レムコト一見偏但為
助後進之勞コト周覽也願因此微功頓開円智願縁此少事常興滿
教矣
元亨四年子甲七月廿二日記之

花嚴宗末資湛睿通夏三十 俗寿五十四

建武四年丑戊於下総国千田庄土橋東禪寺自二月廿三日開講至
三月四日終談凡講席一十二座聽衆十七八人所憑者一熏耳識
功不唐捐所期者終令獲益乃至成仏と祖加力誓期不空早滿行
願速円理智而已
湛睿法臘四十二夏 生年六十七歲